

## 新潟県における若年者の喫煙習慣化防止対策

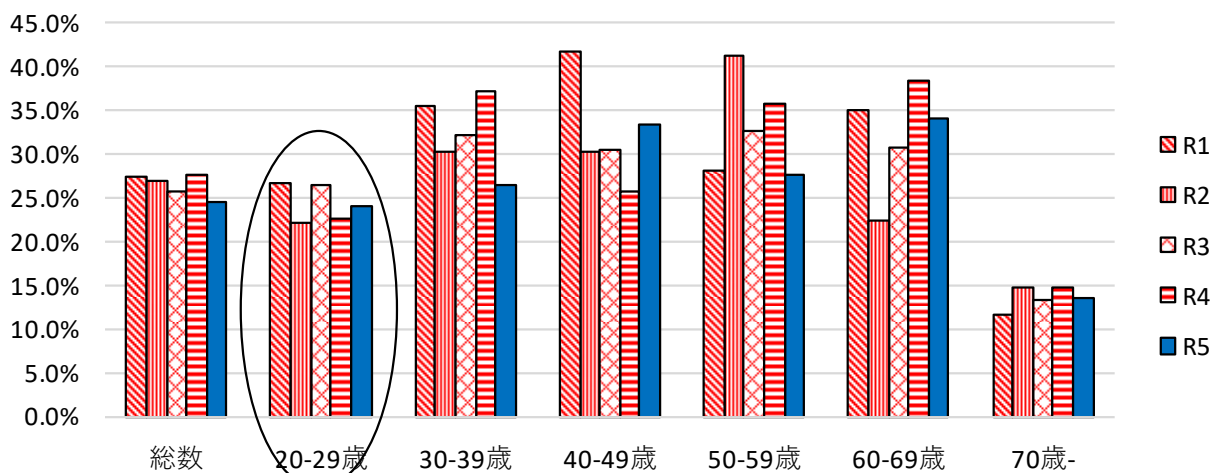
## 1 背景

## (1) 現状認識

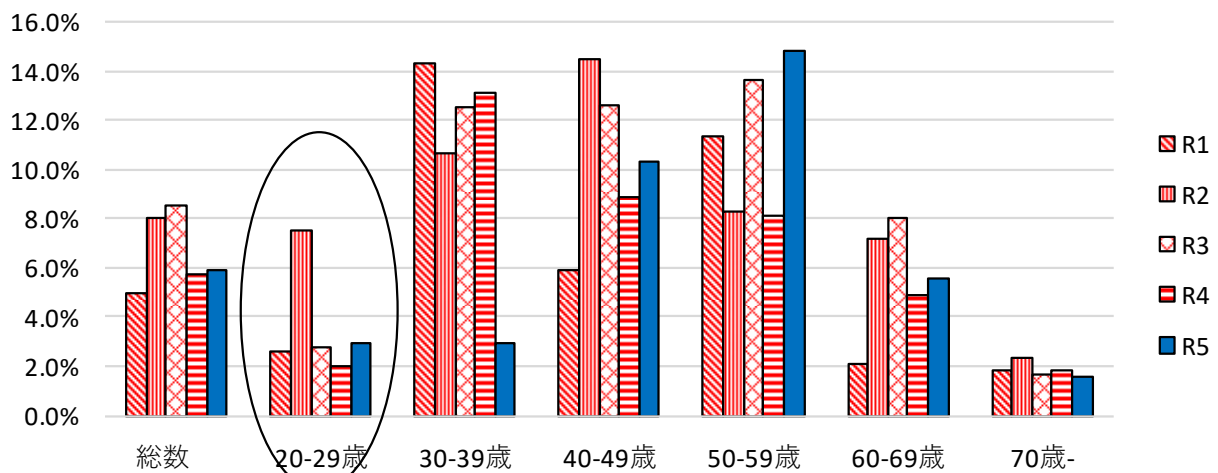
- 20歳未満の喫煙率は年々減少し、ほぼ下げ止まりの状態
- 一方、喫煙開始年齢である20代の時点で、既に喫煙率が大きく上昇  
⇒ 当該世代の喫煙率を減少させる、すなわち若年者の喫煙習慣化を防止することにより、全世代における中長期的な喫煙率の減少につながるものと考えられる

## (2) 習慣的に喫煙している者の割合（男女別、年齢階級別）〔再掲〕

習慣的に喫煙している男性の割合（新潟県、年齢階級別）



習慣的に喫煙している女性の割合（新潟県、年齢階級別）



## 2 県の取組（若年者の喫煙習慣化防止ワークショップ（R5～））

### （1）目的

- 新たにたばこを吸い始める若年者の減少を目指し、喫煙に関する知識の普及啓発を図るとともに、取組のアイデアについて学生と一緒に考える（ワールドカフェ形式による意見交換）

### （2）内容と開催実績（R5・R6 にかき3回実施）

- 講義「新潟県のたばこ対策・受動喫煙対策について」（新潟県）
- 意見交換「喫煙習慣化防止のアイデアを考える」  
進行：NPO 法人まちづくり学校 チーフコーディネーター 大滝 聡 氏

日時	令和5年12月7日（木） 8:50～10:20（90分）	令和6年11月13日（水） 10:30～12:00（90分）	令和6年12月13日（木） 9:00～10:30（90分）
会場	長岡崇徳大学 （長岡市深沢町2278番地8）	新潟青陵大学 （新潟市中央区水道町1-5939）	長岡崇徳大学 （長岡市深沢町2278番地8）
対象者	看護学部看護学科1年生47名	看護学部看護学科3年生40名	看護学部看護学科1年生46名

### （3）学生からの主な意見（別紙報告書（参考資料3-1及び3-2）参照）

- 喫煙習慣化の原因は、「たばこの値段が安い」「たばこを気軽に買える」「喫煙できる場所がある」など、環境的な要因が大きいと考える意見が多数
- 若者がたばこを吸い始め防止には、「成人前からの教育」「健康リスクの啓発」「禁煙の必要性の周知」など、継続した啓発・周知が必要と考える意見が多数

## 3 今後の取組の方向性（案）

- 学生からの意見を踏まえ若者の喫煙習慣化防止には、「喫煙を始めない環境づくり」と「継続した啓発・周知」が必要であり、次の視点で引き続き施策を検討していく

### （1）喫煙を始めない環境づくり

- 喫煙可能場所に係るルールの徹底（受動喫煙防止の観点も含む）
  - ・ 価格や販売場所については県レベルでの取組が難しいため、健康増進法の規定に基づく喫煙可能場所に係るルールの徹底について、受動喫煙防止の観点も含め、引き続き重点的に取り組んでいく。
  - ・ なお、屋外については健康増進法による規制の対象外だが、屋外分煙施設の整備も含めた対策について検討する。

### （2）継続した啓発・周知

- 若年者に対する教育・普及啓発の推進
  - ・ 引き続き、ワークショップを通じた学生への普及啓発に取り組むとともに、過去にワークショップに参加した学生による学内及び他大学、もしくは小・中・高等学校等への波及など、今後の展開方法についても検討する。